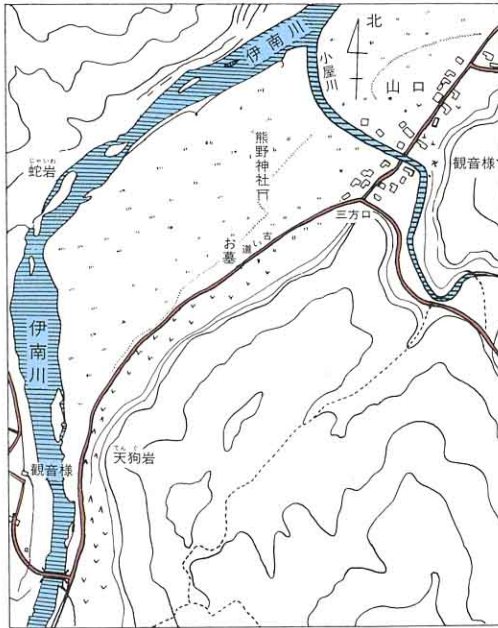


(2) 村の中心山口地区



▲120年くらい前の山口地区



▲今の山口のようす

左 正面 右
田島 此れより川じり伊北越後道
・若松 江戸街道
・若松 立岩・上州道
・若松 三方口の石の道しるべ



今から170年ほど前の山口（板橋・^{いたばし}台・北原はふくめない）は、家数27^{だい}けん、農家ばかりの村で、三方口より南にはあまり家はなく、田畑になっていました。

古い石の道しるべのある三方口には、田島、若松、江戸や只見や古町へ行く分かれ道だったので、今から110年くらい前から通る人が多くなりました。また、学校、役場や郵便局、国や県の役所ができる、ほかの地いきから来る人も多くなりました。

駒止峠をバスや車が通るようになると、集まる人はいっそう多くなりました。おおぜいの人たちが集まるようになると、旅館・飲食店やいろいろな商店のほかに銀行もできて、南会津郡西部の中心地になりました。

住む人も多くなったので、住宅は山口の南の方にふえました。

車の交通量も多くなったので、平成元年（1989）には三方口のバイパスとして山口トンネルが開通したり、道路のはばを広げたりする工事がすすめられています。